

# 令和6年度学校自己評価システムシート (県立越谷南高等学校)

目指す学校像	「文武両道」をとおして「知・徳・体」の調和を実現し、目標を高く持って社会に貢献する人材を育てる学校
--------	---

重点目標	1 PISAタイムやICT活用による授業改善・教材開発を推進し、生徒が実感できる確かな学力の向上を確立する。 2 自主性を育むメリハリある生徒指導やきめ細かな進路指導を充実させ、学校行事や部活動など「文武両道」に基づく豊かな人間性を育成する。 3 外国語科の特性を生かし、異文化理解を深め、語学力を向上させ、主体的にコミュニケーションを図ることができる生徒を育成する。 4 人材派遣等を含め地域活動における連携・協力を深め、本校の魅力を積極的に発信するなど開かれた学校づくりを推進し、公共心や社会性が豊かな生徒を育成する。
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	4名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	9名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標				年 度 評 価 ( 2 月 1 日 現 在 )			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	○新学習指導要領への移行から3年目を迎え、観点別評価への周知理解促進やPISAタイムの課題について工夫改善を図っている。 ○1・2年生の大半の平日の家庭学習時間が1時間未満で、スタディサプリも活用率が低く、学習の動機付けにつながっていない。	授業改善・教材開発の推進	①PISAタイムの工夫改善、ICT活用の授業改善を推進する。 ②授業評価アンケートを毎学期、授業公開週間を年2回実施する。	①PISAタイム、ICT活用の授業研究が実施できたか。 ②生徒の授業満足度、教員相互の授業見学率が向上したか。	①PISAタイム提出率、思考力・表現力模試の結果が共に向上した。 ②生徒授業満足度は大多数の科目で90%以上、授業見学率も倍増した。 ※達成評価 生徒81.2% 保護者80.0%	A	○令和9年度高校入試改革を見据え、文武両道を堅持する方策の検討が課題となる。 ○新課程移行3年が経過し、観点別評価の妥当性や進学実績との関連を検証していく。 ○1年次から進路意識を高める指導を行い、家庭学習習慣定着の動機付けを行う。
		確かな学力の向上の確立	①最新入試傾向を分析し、学力向上を実感できる授業を実践する。 ②スタディサプリの有効活用と共に、生徒のニーズを検証する。	①教員の進路研修参加者数、生徒の模試平均点が向上したか。 ②生徒の自主学習、スタディサプリの視聴時間が増加したか。	①スタサボ研修会を3回実施、予備校主催の研修会も参加を奨励した。 ②前年度比、自主学習時間は横ばいだが、スタサボ活用率は上昇した。 ※達成評価 生徒69.2% 保護者62.7%		
2	○時代の変化に合わせ、校則等の見直しを図ってきた。生徒の基本的な生活習慣は概ね良好であるが、自主的・自発的行動力が弱い。 ○「文武両道」で部活動を3年間全うする生徒が大半である反面、進路希望実現に向けて受験勉強への取りかかりが遅い傾向がある。	自主性を育むメリハリある生徒指導	①規制を緩和しながら、生徒自身が行動選択できる環境を整える。 ②生徒自身が行事を運営し、主体的に参加できる企画を実現する。	①自浄作用のある集団として、生徒指導事案を抑止できたか。 ②生徒会が中心となり、行事での新たな試みが実施できたか。	①集団の自浄作用は醸成されてきたので、個人の規範意識を更に磨く。 ②生徒発案で、対面式のクイズ企画や文化祭前夜祭を新たに実施した。 ※達成評価 生徒72.1% 保護者69.4%	A	○校則のホームページ掲載に合わせ、継続的に校則の点検見直しを行う必要がある。 ○多様な生徒に対応するため、カウンセラーと連携した教育相談体制を確立する。 ○大学全入時代を迎え、本校のボリュームゾーンの目標設定の見直しを検討していく。
		きめ細かな進路指導の充実	①3学年の面接・小論文指導等を学年団を越えて全体で分担する。 ②全員必須の模試に加えて、難関希望者への模試受験を奨励する。	①全体で進路指導方針を共通理解し、受験指導に当たれたか。 ②国公立、難関・中堅私大に延べ200名以上合格できたか。	①学年の垣根を越えて、全職員で3年の面接・小論文指導を実施した。 ②評価指標設定大学に延べ約250名が合格した。(3月12日現在) ※達成評価 生徒78.1% 保護者63.3%		
3	○コロナ禍が明け、外国語科独自の宿泊研修等も再開できており、今年度は夏季休業中のオーストラリア語学研修も実施予定である。 ○外国語科の授業では特にアウトプット活動の能力伸長を図っているが、羞恥心の克服や意見を表明できる態度の育成に課題がある。	外国語科の特性を生かした異文化理解の推進	①ALTとのチームティーチング授業の内容と回数を充実させる。 ②海外への留学制度の活用と、海外からの留学生受入を推進する。	①常駐の2名のALTを教育活動全体で有効に活用できたか。 ②海外への留学希望者、海外からの留学希望者が増加したか。	①ALTの途中交代はあったが、昼休みに英会話タイムを設定できた。 ②海外へ2名留学、海外から2名の留学生を受け入れて親睦を深めた。 ※達成評価 生徒70.7% 保護者58.0%	B	○豪州語学研修やTGG語学研修に普通科から参加希望者が少ないことが課題である。 ○大学入試に利用できる英語外部検定の受検対策を1年次から継続して指導していく。
		語学力及びコミュニケーション能力の育成	①英語及び第二外国語の検定やコンテストに積極的に参加する。 ②外国語科生の英語劇にプロの指導を取り入れ、全校に披露する。	①検定やコンテストへの参加により、語学力が向上したか。 ②英語劇の取組により、言語・非言語の表現力が向上したか。	①スピーチコンテスト、英作文コンテスト県大会で共に上位入賞した。 ②英語劇の新作に挑戦し、プロの指導のもと県大会で個人賞受賞した。 ※達成評価 生徒71.8% 保護者55.9%		
4	○保護者や中学生対象に学校公開する機会はあるが、地域への周知や連携はまだ十分でない。異校種交流は先方からのニーズがある。 ○ホームページ内のブログの毎日更新や公式Instagramで情報発信している。中学生からは部活動に関する情報のニーズが高い。	地域活動における連携・協力の強化	①学校公開日等を周知し、地域のイベントにも積極的に参加する。 ②近隣の幼保小中高との交流や、大学と連携した取組を企画する。	①学校公開の来校者数、地域と連携した取組が増加したか。 ②近隣の学校との交流、大学と連携した取組が実施できたか。	①学校公開に600名来校した。近隣大型商業施設と連携事業を行った。 ②中学校とは部活動、小学校とは英語で、保育園とも交流を企画した。 ※達成評価 生徒59.1% 保護者49.4%	B	○コロナ禍が明けて地域連携事業も徐々に再開したが、関わる生徒がまだ少数である。 ○公式Instagramの即時性を高める運営体制を整え、フォロワー数の拡大を図る。 ○中学生のニーズに合わせて学校説明会や地域の説明会で早期の説明機会を確保する。
		本校の魅力に関する積極的な情報発信	①学校ホームページのレイアウトや内容を閲覧者目線で改善する。 ②学校案内の構成や学校説明会等の内容を中学生目線で改善する。	①学校ホームページの刷新により、アクセス数が増加したか。 ②学校説明会等の説明内容に、中学生の満足度が向上したか。	①ブログの更新数と内容の充実により1日平均1700ビューを確保した。 ②学校説明会全8回追加募集含めて2400名受け入れ、概ね好評を得た。 ※達成評価 生徒73.8% 保護者73.6%		

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	令和7年2月4日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
○PISAタイムやICT活用は評価できる。スタサボ活用率の上昇など、課題をとらえて方策を講じた成果と感ずる。 ○学校評価アンケート集計は5段階で得点化したり、インタビューやテキストマイニングで質的なものを加えるとよい。 ○1・2年生の平日の家庭学習1時間未満が約半数なのは課題で、SNSやゲーム等の余暇活動時間も調査するとよい。	
○あらゆる活動において、それに取り組む意義や「課題発見力」「問題解決力」を磨くことを念頭に指導してほしい。 ○生徒自身が行事を運営する場を作ることで主体性が高まり、学校生活満足度も高まるという良い相乗効果生まれる。 ○推薦で大学に行くことが生徒も保護者も一つのスタンダードになっているが、一般入試に対応できる力も必要である。	
○外国語科で英語のコンテストの成果を上げているのは素晴らしい。本校の特色でもあるのもっとPRできるとよい。 ○英語劇の取組など、インプットだけでなくアウトプットの重要性に着目して、方策を立てようとしている点が良い。 ○異文化理解や語学力向上に関する保護者の評価が低く感じる。普通科も含めて学校全体で取り組んでいけるとよい。	
○小学校との交流は、小学生が高校進学を考える機会になったり、高校生にも好影響があるので今後も継続してほしい。 ○交流活動自体が目的化しがちなので、交流を通して何が足りないのか、何を見つけたのかを知ることが大事である。 ○Instagramは生徒の生き生きとした姿や授業の内容もよくわかるので、魅力的で良い広報活動であると感じた。	